

## 令和6年度第1回勝浦市部活動地域移行検討委員会 会議概要

日 時：令和6年8月9日（金）午前10時 から

場 所：勝浦市役所4階 403会議室

### 議題(1) 委員長、副委員長の選出について

委員長：勝浦市スポーツ協会会長 水野 博

副委員長：国際武道大学教授 嶋崎 雅規

### 議題(2) 国及び千葉県における部活動地域移行の在り方と、勝浦市における現時点での部活動地域移行の方向性について

#### 【木村委員】

●部活動地域移行に関し、国や県から助成金や補助金のようなものはあるのか？

⇒実証事業、モデル事業の実施に関しては、それにかかる経費に対する補助が県から出ている。

ただし、完全移行した後にかかる経費、ランニングコストに対する補助については現時点ではあまり期待できないものと認識している。

⇒事例を積み上げるための補助であるため、軌道に乗った後は、補助が適用されることはないと考ええる。

#### 【長田委員】

●文化系の部活動については、どのような部活動があるのか？

⇒吹奏楽部、美術部、家庭科部の3部がある。

#### 【岡安委員】

●柔道部顧問の方から地域と連携したいという意向。市の柔道会から指導者の派遣

●剣道部顧問の方から自分でやっていきたいという意向。

●陸上部は不定期ではあるが、既に国際武道大学の4年生が指導に入っている。

●野球部顧問の方から地域と連携したいという意向。今後、顧問にヒアリングしながら地域との連携を進めていく。

●ソフトテニス部は国際武道大学のテニス部の顧問、また、保護者でもある方になりますが、木村委員(教授)を通じて、国際武道大学の学生を中心に調整を行ってもらっている。

●卓球部顧問の方から地域と連携したいという意向。市生涯学習課を通じて、卓球協会と接点を持っていこうと考えている。

●バスケットボール部は既に国際武道大学との連携を進めています。大学のバスケットボール部との合同練習や定期的な練習会を予定している。また、興津小、上野小でミニバスケットボールを指導いただいている方などにもお願いしてみる。

●バレーボール部顧問の方から自分でやっていきたいという意向。

●吹奏楽部は当初顧問は自分でやりたいとのことであったが、自分自身の指導技術をさらに磨きたいという意向から、指導経験のある方と一緒にやってみたいとの意向。

●美術部は平日の活動のみとなっている。長期休業や文化発表会前など、一緒に活動していただける方がいれば、お願いしたい。

●家庭科部は可能であれば、地域との連携を進めたい。

●そもそも、この部活動地域移行は課題が多く、県では、土曜日、日曜日だけどうにかしろといっているが、小中体連の大会は土曜日、日曜日の運営であったりなど、矛盾点が多くなっている。このような中で、本校としては、地域全体で子どもたちの部活動を支援できればというところに立ち返り、まず一番大事にしなければならない生徒の生の声や顧問の考え方など、今後、それぞれにヒアリング等を行いながら進めていきたい。

#### 【嶋崎委員】

●部活動の地域移行というよりかは、やはり地域連携というのが適切であると考え。あくまで学校と地域が連携しながら子どもたちのスポーツ活動や文化活動の環境を整えていく。そういった方向がよろしいのではないか。

●岡安委員の言うように、生徒、顧問にヒアリングを行いながら、勝浦市独自のかたちをつくっていくことが重要であると考え。

#### 【土馬委員】

●県は部活動を地域に移行しろと言っている。一方で、勝浦市は独自の考え方ということで、あくまで部活動という概念で生徒、顧問にヒアリングしながら、地域と連携して進めていくとのことであるが、そういった考え方で問題ないのか。

#### 【嶋崎委員】

●顧問の先生の立場を兼職兼業を教育委員会で認めて、クラブの指導者として指導することも可能です。ただし、そこには謝金が発生すると思いますので、予算が必要となってきます。

●顧問の代わりに部活動指導員という非常勤職員を任命することで、顧問の代わりに務めることができる。対外試合の引率もできるものとする。

●しっかりと発掘した上で、それをちゃんと部活動指導員という、いわゆる外部指導者ではなくて学校の非常勤職員として雇用するという形にして、そして土日の活動をしていくということになるのかなというふうに思います。

#### 【長田委員】

●地域連携をするにしても、すべてをボランティアでやってくれというのは難しいものとする。

●受益者負担の考え方自体は、最低限は必要ではないかと考える。

#### 【嶋崎委員】

●受益者負担については、一部自治体で補助している地域などもあるが、学校の規模が大きいところは一人当たりの負担が少なく、逆に学校の規模が小さいところは、一人当たりの負担が大きくなる。高額な負担な場合、家庭の事情から通えないケースも考えられるため、こういった格差は起こらないようにしなければならないと考える。

●国際武道大学の学生ですが、学生は指導の現場をもらえるということで、実はそちらの方がお金よりもありがたいわけですが、一方で、ボランティアでやるのと謝金をもらってやるのでは責任の度合いが変わってきます。学生を管理する側も、君たちは謝金が発生している以上、これはボランティアじゃありませんから、しっかりやってください。責任を持ってくださいと言える。少額でもよいので、謝金を払ってもらったほうがよいと考える。

【関野委員】

●最近、岡安校長になってから、生徒と地域の方々が関わる機会が増えたと考える。これはとても素晴らしいことと考える。芸術・文化の分野でいろいろと協力できることもあると思うので、お声掛けいただき、一緒に活動できればと考える。